

平成25年
(2013年)

冬号

大津・南部の農業

発行

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所 農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421~5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp
発行責任者 古谷 博幸

目次

- 特集 六次産業化の推進について
- 水稲新品種「みずかがみ」栽培のススメ
- 表彰者の横顔紹介～食育推進ボランティア表彰受賞～
- 農業大学校就農科について
- 野生獣侵入防止柵の設置を機に集落農業を活性化

六次産業化の推進について



六次産業化という言葉をご存知ですか？

六次産業化とは「農家（一次産業）が、自家農産物を利用して加工（二次産業）や流通・販売（三次産業）まで行う取組（一次×二次×三次＝六次産業化）」のことをいい、具体的なメニューとしては、農産物加工、直接販売、農家レストラン、農家民宿、貸し農園、観光農園、農作業体験などがあります。

大津・南部管内は、県内でも消費者や若い世代が多く住み、京阪神からの行楽客が多く来られる地域です。生産者の顔が見える農産物を求める声や、豊かな田園風景を楽しみたいというニーズがあるため、農産加工や直売、観光農園など多様な取り組みが行われています。また、始めたいと考えている方もあるのではないのでしょうか。そこで、意欲的に取り組まれている専業農家と女性グループから、商品開発や販路拡大を考える際の着眼点、アイデアを出す工夫などを聞かせていただきましたので、次ページで紹介します。

また、六次産業化の推進は、国が示した「攻めの農林水産業」の三つの戦略の一つに挙げられ、滋賀県においても関係機関が連携して支援しています。関心のある方はぜひご相談ください。

農産物の加工・販売 ー野洲市 みのり農園ー

野洲市野田の「みのり農園」代表の三浦大介さんは、自ら栽培した米と大豆を使った加工品の販売で売上を伸ばしておられます。白米や玄米を使ったポン菓子などの定番商品から、丹波黒大豆を使ったポン菓子「黒ぽん」や黒豆茶「黒茶ん」など、様々な商品を加工されています。加工品は、県内の直売所を中心に大阪の飲食店などでも販売しており、子どもからお年寄りまで幅広い層から好評を得ているそうです。「農業は天候に左右されやすい。農産物を生産するだけではなく、加工によって付加価値を高めることで、経営の安定につながる。」と語る三浦さん。最近では、加工施設を増設され、さらなる農産加工での売上アップを目指しておられます。



農産物の加工・喫茶店営業 ー大津市 北比良グループー

大津市北比良の北比良グループ（澤春江代表・9名）は、昭和42年結成の生活研究グループですが、平成15年に新しいメンバーの加入をきっかけに起業活動をめざす女性グループへと転身されました。80歳代のリーダーのもと、50歳代と30歳の若手グループ員が弁当や菓子、パン、マーマレード、味噌、喫茶店営業に取り組んでおられます。



起業をめざす活動の原動力になっているのは「一人一役の責任分担」と「定期的開催される専門家を交えての経営戦略会議」です。一人ひとりが担当分野の目標をたて、メンバー全員が参加して売上実績や購買行動の分析と新商品開発に向けての話し合いが行われています。

北比良の風光明媚な景観を生かして都会から消費者を呼び込む一方、京阪神の消費者に商品を売り込みにいきたいと意欲ある活動を展開されています。

つみ取り観光農園の取り組み ー野洲市 南出農園ー

野洲市比江の南出農園では、ミツバ水耕栽培に取り組んでおられ、後継者の就農を機にイチゴとブルーベリーを始められました。

もともと果菜類に興味を持っておられたそうですが、県内で栽培されているイチゴ（章姫）を食べる機会があり、その時のイチゴの美味しさに驚かれました。さらに奥さんの友達同士の会話で「冬はどこにも遊びに行くところがない」と話されているのを聞いたときに「イチゴは冬場に収穫する品目だ！」とひらめいたことがきっかけとなり、摘み取り観光農園を始められました。最初はイチゴから始め、3年後からブルーベリーにも取り組まれています。さらにハウスの中に直売所を設置し、ジャムやアイスクリーム等の販売にも取り組まれています。



※六次産業化の事業に取り組む場合には商品開発や施設・機械導入の支援事業があります。支援事業を受けるには「六次産業化にかかる総合化事業計画」を国に申請して認定を受けておく必要があります。

水稻新品種「みずかがみ」栽培のススメ



今年、大津・南部管内では23名の方が16 haで水稻新品種「みずかがみ」の栽培に取り組みられました。

大津・南部管内の収穫時期は8/21～9/5頃で、反収はばらつきがあるものの平均で9俵を超えました。また、1等比率は他品種が今夏の暑さで低くなったなか「みずかがみ」では96%と高くなりました。

次年度は生産面積を大幅に拡大し、県下で1,000 ha程度の作付を計画しています。

みなさまも「みずかがみ」栽培に取り組んでみませんか。詳しくは、当課もしくは最寄りのJAまでお問い合わせ下さい。

※「みずかがみ」は環境こだわり米基準で栽培する必要があります。



みずかがみ

＝受賞者の横顔紹介＝

平成25年度 食育推進ボランティア表彰受賞
栗東市 中井あけみさん

栗東市下戸山の中井あけみさんは、里山の暮らしを通じて農村の良さを皆さんに伝えたいという思いを持ち、食と農の魅力伝える伝道師として日々奮闘されています。



農業体験指導では、田植え・草取り・稲刈り・米粉を使ったパン作り・そばの栽培・そば打ち等、栽培から調理に至る一連の作業が体験できるプログラムを展開されています。また、ニゴロブナを放流して水田の雑草をおさえ、成長したフナで伝承食「ふなずし」の加工に挑戦するなど、環境学習や命と食のつながりを次代につなぐ活動も進められています。

今後の中井さんの活躍に期待しています。



滋賀県立農業大学校就農科について

県立農業大学校では、新規就農者の円滑な就農と安定した農業経営の実現を支援することを目的として修業年限1年の就農科を設置しています。次年度の募集については12月以降に公表される予定です。関心のある方は農業大学校(電話0748-46-2551)へお問い合わせください。

野生獣侵入防止柵の設置を機に 集落農業を活性化 ～大津市上田上桐生町の取り組み～

平成24年度の鳥獣による農作物被害調査によると大津・南部地域では約7千万円の被害が発生しています。獣害は山ぎわの棚田などでの発生が多く、高齢化が進んでいることから営農意欲の減退や耕作放棄などにつながりがちです。

県では「集落環境点検」による気づきをもとに、集落ぐるみの獣害対策をすすめています。集落環境点検では、集落の被害状況を確認して実践計画を作成しています。

大津・南部地域では平成25年10月末現在で58集落で点検が実施されました。集落ぐるみで対策を行うことから集落の団結力が強まり、集落の活性化に発展する事例も見られるようになりました。



農地周辺に設置された侵入防止柵



集落環境点検

大津市上田上の桐生生産組合では集落環境点検を実施して、緩衝帯や侵入防止柵を整備しました。

集落ぐるみでの柵の設置や、その後の維持管理などの取り組みを続けた結果、農作物被害が減少しました。収穫量も増えたことから、次のような様々な取組が始まっています。



○土曜軽トラ市の定着

生産組合では、近隣住宅地に近い農地で毎週土曜日に青空市を開催しています。

農作物被害が減少したことで以前より多くの農産物が販売されるようになりました。

○新米試食会

新米の試食会は3回目を迎え、今回は、コシヒカリ・キヌヒカリ・レーク65・みずかがみの4品種を消費者に味わっていただき交流を深めました。来場者数も順調に伸びています。

○青年農業者の就農

生産組合の中にUターン就農された青年がおられ、侵入防止柵が整備されたほ場で野菜栽培に取り組まれています。白いトウモロコシを栽培し隣接するキャンプ場やJAの直売所で販売されたところ、大変な評判となりました。



4品種の試食風景